



第 21 卷第 12 號 昭和 10 年 12 月

役員會

第 10 回役員會 (昭 10-11-18)

出席者：青山會長、草間副會長、内田、小野、佐藤、鈴木、野口、藤井、古川各常議員、名非前會長

決議並に報告事項

1. 第 3 回工學會大會土木部講演委員會の設置を決議し委員の選定は會長一任とせり。

2. 昭和 10 年度以降より贈呈すべき土木賞牌の原形を決定せり。

3. 定款及規則改正委員會の設置を決議し委員の選定は會長一任とせり。

4. 入退會の件

荒木準君外 4 名を會員に、荒井珍雄君外 25 名を准員に、青砥謙一君外 36 名を學生員に入會を承認し、荻野忠正君外 10 名を准員より會員に、小久保參次君外 4 名を學生員より准員に轉格を承認せり。

5. 本會法制部及調査部々長、次長に下記諸君を依頼せり。

法制部、部長 宮長平作君、次長 金森誠之君
調査部、部長 野口寅之助君、次長 小野基樹君

6. 定款及規則改正委員會委員に下記諸君を依頼せり。

草間 偉君、池邊雅生君、古川淳三君、
佐藤利恭君、名非九介君、非上秀二君、
平山復二郎君、宮本武之輔君、野坂孝忠君、

編輯委員會

第 12 回編輯委員會 (昭 10-12-2)

出席者：藤井編輯長、龜田、末森、瀧淵、野口、福田各委員

協議事項

1. 第 21 卷第 11 號所載論說報告に對する討議依頼先を決定せり。

2. 第 21 卷第 11 號所載工事寫眞、論說報告、彙報及抄録の謝禮を決定せり。

3. 第 21 卷第 12 號に下記寫眞及原稿を追加せり。

紹介寫眞：東京帝國大學工學部新土木教室、京都帝

國大學工學部中央實驗所

抄 録：世界動力會議の大堰堤國際委員會（米屋）、沈澱槽の改造（玉置）、瑞典に在る鐵筋コンクリート橋（瀧山）、紐育 Triborough 橋全貌（糸川）、徑間 528 呎の鐵筋コンクリート下路拱橋（糸川）、組合應力を受ける材料の破壊理論（最上）、薄板と輕金屬の銹止め繰返し試験（最上）、過歪された材料中の應力（最上）、直徑方向の丸孔を有する軟鋼丸棒の引張、壓縮及振り實驗（最上）、初期運動を考慮に入れた膜及び板の強制振動（最上）、降伏内力の限界に就て（最上）、Krefeld-Uerdingen 地方に於けるライン河の道路橋（富田）、歪鋼製軋（奥田）、ラーメンの簡易計算（奥田）

4. 第 22 卷第 1 號登載論文を下記の通り決定せり。
講演：東洋工業會議の感想（會、工、松永工、會、工、博、宮本武之輔、會、工、加賀山學、會、工、山田隆二）

論說報告：地下鐵道線路に於ける線路の間隔及隧道の大きさに關する調整々備に就て（第 2 編）（會、工、安倍邦衛）、道路縱斷勾配の路面排水上に及ぼす效果に就て（會、工、工藤久夫）

彙 報：順川第 2 發電所工事概要（落合盛）、小樽港浪害狀況（會、工、岡田信次）、支那機械救授會之土木事業成績概要（會、工、清水本之助）

抄 録：Denver 市の原水補給に就て（小林）、型枠に及ぼすコンクリート壓力（住友）、霜害防止の試験道路（本城）、氷雪に對する冬季の道路交通維持（本間）、加州の記録的降雪に際しての道路除雪（本間）、Grand Coulee 堰堤（山岡）、汚泥の噴霧乾燥（西村）、鐵筋コンクリート床の補強（米屋）、米國に於ける鐵筋コンクリート柱の研究（米屋）、Buchs に於て Rhein 河に架る新鐵道橋（奥田）、グラウチングに依る土堰堤の漏洩防止（玉置）、長さ 24 呎の 72 吋コンクリート管の製造（吉藤）、三鈹アーチの裡屈強さに就て（村山）、筒型矢板の載荷試験に就て（傍島）

特許紹介：8 件及登錄實用新案 13 件

5. 第 22 卷より會誌組方に關し下記の改正を加へる事とす。

應、學、函、解、纜、圧、變、円、撓、徑、体、繞、轉、輕、鉄、齡、焔、驗、繼、斷、の 20 字は略字を使用する事、

圖表類は例へば、表 I、圖 1 の如く記す事、

號毎の追頁を附する事、抄録には各部門別に番號を附する事。

6. 昭和10年度優秀論文及報文候補 9編を選定せり。

土木學會振興委員會

第1部會第2回委員會(昭10-11-18)

出席者：中山、岡野、中川、那波、名井、眞田、久保田、井上、八田、眞島各委員、青山會長、古川主事、佐藤主計、柴原書記長、小野寺庶務主任、

全會一致にて中山秀三郎君を委員長に推し常議員増加其他に關し協議したる結果、之に伴ふ定款及規則の改正を要するを以て定款及規則改正委員會設置を役員會に提案することゝす。

第3回工學會大會土木部講演委員會

第1回委員會(昭10-11-25)

出席者：草間副會長、大河戸委員長、田中、高橋、山口、岩澤、青木、後藤、萩原、關、宮本、河口、榎木、井上、赤木各委員

藤井工學會講演委員、龜田、瀧淵、福田各編輯委員

第3回工學會大會規則及び部會構成要綱に就き藤井工學會講演委員より説明あり、大河戸委員長退席の爲田中委員座長となり議事を進む。

1. 部會に於ける講演數決定の件

講演數總計110人内外とし、其の内譯大體下の標準を以つて夫々各委員にて人選の上講演を依頼し、提出されたる論文の内容に依りて更めてテクニカル・プログラムの各部門に配屬する事。

而して本會にて斡旋せる論文は總て土木部會にて講演する様取計を希望する事。

(イ) 一般土木關係	40人
(ロ) 應用力學關係	10人
(ハ) 鐵道工學關係	20人
(ニ) 銲接工學關係	5人
(ホ) 工業材料關係	25人
(ヘ) 動力關係	10人
計	110人

件

論文は之を内務技監に依頼する事
件

朝鮮臺灣滿洲を含めて講演者總數116名を各委員の擔當部門別に豫定せり。

而して最後の選定は各委員にて再考の上次回委員會にて決定する事とす。

4. 次回委員會は12月4日(水)に開催する事に申合せり。

定款及規則改正委員會

第1回委員會(昭10-11-27)

出席者：草間、池邊、佐藤、名井、宮本、野坂各委員、青山會長、平井副會長、柴原書記長、小野寺庶務主任

青山會長より本委員會設置並に定款及規則改正に關する経過を説明したる後、委員長に名井九介君を推し協議の結果次の申合せをなせり。

1. 常議員及理事の増員 其の他に伴ふ定款及規則の改正草案を下記の小委員に於て作成し次回の委員會にて之を審議することゝす。

小委員 池邊稻生君、佐藤利恭君、平山復二郎君、宮本武之輔君

2. 次回の委員會は12月13日(木曜日)開催することゝす。

維新以前日本土木史編纂委員會

第33回委員會(昭10-11-23)

出席者：眞田副委員長、名井、小川、伴、板井、前川、安藤、茂庭、牧各委員、高柳、栗原、渡邊各囑託

本月の編纂事務その他の報告をなし次の事項を協議せり。

1. 土木史配本を4月に延期のこと、 1. 校正者増員のこと、 3. 編輯を急ぐこと。

東洋工業會議に於ける感想を聴く會

○昭和10年11月28日午後5時より東洋工業會議へ本會代表として出席せられたる下記諸君の同會議に於ける感想を聴く會を學士會館講堂に於て開催す。

出席者120名

本會代表者 加賀山學君、松永工君、宮本武之輔君、山田隆二君、外商工省囑託吉田永助君

○終了後歸朝歓迎晩餐會を開催し 37名出席ありたり。

日本工學會記事

その他の記事

○昭和 10 年 11 月 28 日日本工業俱樂部に於て日本工學會評議員會を開催し一般會務の報告あり、次で下記事項を決議せられたり。

1. 第二皇子御誕生に付賀表捧呈の件

11 月 28 日第二皇子御誕生遊ばされたるに付本學會より 12 學會連名の賀表を捧呈することとし、捧呈の手續は理事長に一任することとす。

- 2. 工政會に對する貸付金の處置に關する件
- 3. 歳末賞與並に手當支給の件
- 4. 故古市男爵未亡人長逝に付生花贈呈の件

○親王殿下御誕生被遊たるに付日本工學會は社員 12 學會を代表し理事長眞野文二君並に主事松田竹太郎君昭和 10 年 11 月 30 日午前 10 時宮内省に出頭し下記の賀表を捧呈せり（大廣奉書二ツ折を大奉書にて包み表面上段に上の字を記す）。

○昭和 10 年 11 月 18 日理事會を開き青山會長、草間副會長、古川主事、佐藤主計、藤井編輯長出席し次の事項を協議せり。

- 1. 法制部及調査部の部長及次長に役員會記事の諸君を選任すること。
- 2. 第 3 回工學會大會土木關係講演委員會の委員に次の諸君を依頼することとす。

委員長 大河戸宗治君、委員 田中豊君、宮本武之輔君、高橋三郎君、河口協介君、山口昇君、鈴木雅次君、岩澤忠恭君、榎本寛之君、青木楠男君、三浦七郎君、後藤宇太郎君、井上隆根君、萩原俊一君、平山復二郎君、關信雄君、赤木正雄君。

- 3. 定款改正委員會委員に（役員會記事の諸君）を依頼することとす。

○昭和 10 年 11 月 24 日土木學會誌第 21 卷第 11 號を發行成規の手續を了し 11 月 25 日全會員に配布せり。

○昭和 10 年 11 月 18 日までに下記諸君を入會並に轉格の手續を了し名簿に登録せり。

	昭和十年十一月三十日 日本工學會社員 日本工學會理事會 正三位勳二等 眞野文二	賀 親 謹 シ 王 ミ 奉 殿 テ ル 下 ノ 御 誕 生 ヲ	
--	--	--	--

入 會 の 部

氏 名	勤 務 先	氏 名	勤 務 先	氏 名	勤 務 先
會 員					
荒 木 埴君	昭和製鋼所	小 川 省吾君	土木講習業小川組	松 原 正 喜君	山梨縣土木課
飯 田 乙 彦君	山梨縣廳土木課	木 村 弘太郎君	山梨縣廳土木課		
准 員					
荒 木 珍 雄君	慶尚北道産業部山林課	岩 山 禾 藏君	神戸川崎造船所經理部	小 荒 非 八 十 六 君	内務省岩手區道改良事務所
岩 崎 嘉 太 郎君	湖濱國々務院國道司	大 平 功 君	青森縣雄ヶ澤土木出張所	已 斐 一 郎君	吳海軍建築部
猪 又 武 治君		加 藤 初 雄君	名古屋市土木部	小 林 彦 太 郎君	名古屋市水道部

五月女運平君 國道局奉天建設處
 佐藤一郎君 函館市復興事務局
 齋藤拓君 東京府第二道路改修事務所
 田村義禮君 〃
 高島禎一君 鹿島組
 瀧谷正夫君 北海道帶廣治水事務所

東田基夫君 札幌運賃局工務課
 永田文男君 岐阜縣土木課
 連水滋君 臺灣電力水視坑建設事務所
 深津榮一君 電機學校
 古山金作君 青森縣陸ヶ瀬土木出張所
 堀場正一君 東邦電力株式會社名倉建設事務所

萬代淑郎君 日本電力株式會社
 矢武武雄君 北海道國出銀所技術課
 渡邊利光君 東邦電力株式會社土木課
 笠原篤三君 京都府土木部監理課
 田中茂春君 大阪市水道部下水課

學 生 員

青砥謙一君 神戸高工
 荒木謙一君 京大工學部
 石尾良一君 神戸高工
 石黒廣平君 名古屋高工
 泉男辰君 神戸高工
 大野幸男君 〃
 尾崎孝平君 〃
 梶木吉巳君 〃
 鎌田眞三君 〃
 加茂金吾君 〃
 久保戊信君 〃
 佐藤浩三君 〃
 佐藤富文君 仙臺高工

下山次郎君 仙臺高工
 新司延次郎君 神戸高工
 鈴木藤三郎君 仙臺高工
 田中弘顯君 〃
 竹内友明君 神戸高工
 千賀重衛君 京大工學部
 中島總一郎君 日大高工
 仲西市郎君 神戸高工
 關津保丸君 山梨高工
 野村正君 名古屋高工
 萩原精君 東城高工
 橋場章君 武蔵高等工科學校
 服部正一君 北大工學部

宮川勇君 北大附屬土木專門部
 宮崎誠三君 神戸高工
 三谷利次君 〃
 村幸雄君 京大工學部
 村上眞造君 仙臺高工
 山田典巳君 武蔵高工
 吉田幸一君 日大高工
 徳田光彦君 神戸高工
 板橋一郎君 仙臺高工
 岡野浩君 神戸高工
 坪井秀四郎君 東京高工

轉 格 の 部

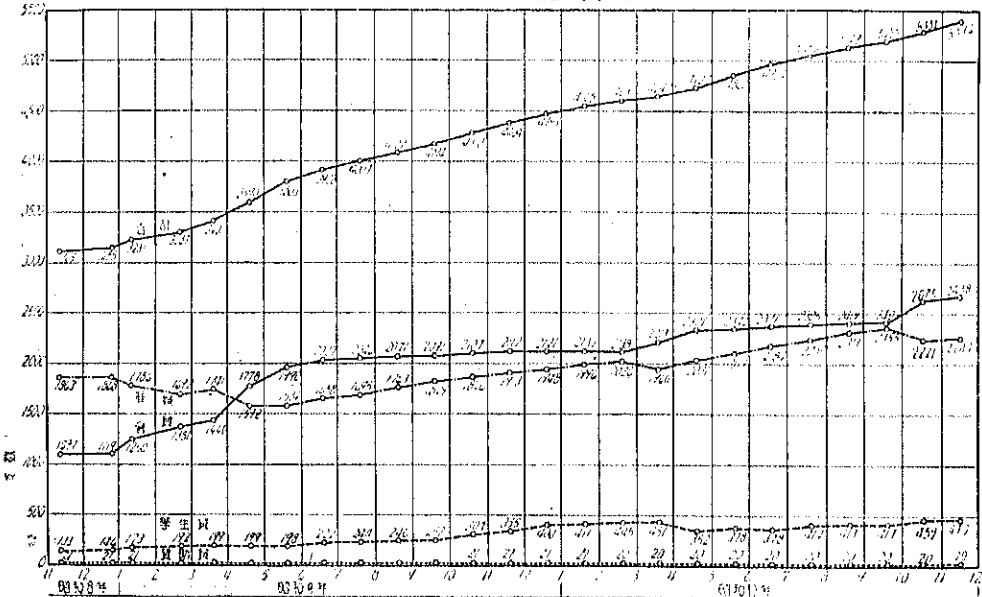
會 員

萱野忠正君 中川亮次君 廣田孝一君 三澤芳雄君 山田正三君 山本佳六君
 土木義雄君 馬場大洲君 服部政一君 山崎浩君 山田正平君

准 員

小久保參次君 神宮司務君 田坂榮美君 高野邦彦君 高橋武雄君

會 員 移 動 一 覽 圖 表



○圖書及雑誌(昭和10年11月中)

交 換

都市問題	第21卷第5號	東京市政調査會	The Journal of the Society of Chemical Industry, Japan, November, 1935, Vol. 38, No. 11 Society of Chemical Industry.
石炭取扱機	第14號 昭和10年10月	日本動力協會	日本建築士 第17卷第5號
鐵と鋼	第31年第10號	日本鐵鋼協會	衛生工業協會誌 第9卷第10號
機械學會誌	第38卷第223號	機械學會	電氣學會雜誌 第55卷第11册 第568號
道路の改良	第17卷第11號	道路改良會	工 政 10年11月187號
水道協會雜誌	第13號 昭和10年11月	水道協會	建築雜誌 第49輯第605號
資源	第5卷第11號	資源局	業務研究資料 第23卷第30~32號
工業化學雜誌	第38編第11册 第453號	工業化學會	會 報 第36卷第11號
建築と社會	第18輯第11號	日本建築協會	日本鑛業會誌 第51卷第607號
港 灣	第13卷第11號	港灣協會	製鐵業參考資料 昭和10年11月
Proceedings Vol. 61 No. 8. American Society of Civil Engineers.			ガスの高壓輸送 昭和10年11月

寄 贈

ニッケル合金鋳鋼に就て	日本ニッケル時報局	日立評論 第18卷第11號	日立評論社
滿洲電氣協會會報	康德2年10月第32號	滿洲電氣協會	東京工業大學 自昭和10年至昭和11年
學 報	第4卷第10號	東京工業大學	工學部紀要 第4卷第2號
國立公園	第8卷第11號	國立公園協會	富士川の洪水 昭和10年11月
土木建築雜誌	第14卷第11號	シビル社	江戸川水利統制 昭和10年11月
工 學	第255號 11月號	東京工學社	帝國學士院紀事 第11卷第8號
セメント界彙報	第332號 11月號	日本ポルトランドセメント同業會	エンジニア 第156號 10年11月
Excavating Engineer	Vol. 24, No. 10,	三井物産機械部	運 河 淺野好著
Romazi Sekai	Vol. 25, No. 11,	日本のローマ字社	滿洲建築雜誌 第15卷第11號
夜間實業教育	文部省實業學務局編纂	澁木直一	三菱電機 第11卷第7號
鑄 物	第7卷第11號	日本鑄物協會	會務彙報 第48號 昭和10年11月
名古屋港賀年報	昭和9年分	愛知縣名古屋港務所	利 根 第1卷第11號
名古屋港案内	昭和9年	愛知縣名古屋港務所	工業現勢 第4卷第11號
應用彈性學	第 4 卷	コロナ社	東京みなと祭
彈性體の力學	第 2 卷	コロナ社	資 源 第5卷第12號
鐵骨構造	第2卷, 第3卷	コロナ社	骨組の力學 第 2 卷
鐵道技術	第9卷第12號	鐵道技術社	

購 入

Der Bauingenieur, Oktober 1935, 16 Jahrgang, Heft 41~46.

Beton und Eisen, Oktober 1935, 34 Jahrgang, Heft 20~21.

Engineering News-Record, October 1935, Vol. 115,
No. 14~18.

Engineering Geology, By Cyril S. Fox, The Techni-
cal Press LTD.

Die Bantchnik, Oktober 1935, 13 Jahrgang, Heft
44~46.

准 員 美野君造君の訃報に接す、本會は恭しく哀悼の意を表す。

會 告

第 3 回工學會大會の論文募集

昭和 11 年 4 月上旬東京に於て第 3 回工學會大會が開催されますが、右大會に於て発表すべき論文の提出に関する注意が公表されましたから、次の注意と大會規則(本誌第 21 卷第 10 號會報欄)を参照の上多數會員の論文提出を希望致します。

論文提出に関する注意

1. 論文に関しては大會規則第 6 章参照のこと
2. 論文は成るべく 8 000 語(英文による 8 000 語の意味)以内たるべきこと
3. 同一人の提出し得べき論文數には制限なし
4. 論文提出希望者は昭和 11 年 1 月末日迄に其の題目及び梗概(成るべく英文とし 500 語以内たるべきこと)並講演所要時間其他映寫設備の要否等を日本工學會へ通知すること、但し日本工學會社員たる學會及び協會の會員は各其の所屬學會協會へ同日迄に通知のこと
5. 論文提出希望者は前項の通知以外其の論文の全文を昭和 11 年 2 月末日迄に日本工學會に提出すること
日本工學會社員たる學會及び協會の會員は前條と同様各所屬學會及び協會へ提出のこと
6. 論文及び其の梗概には著者の姓名、住所、學位、稱號、職業及び所屬學會協會名を記載すること
7. 附圖は其儘縮寫し得る様墨書にて明瞭に認むべきこと
8. 寫眞は其儘複寫し得る様明瞭なるべきこと
9. Technical Programme に掲げたる種別は論文の範圍を大體示すに止まり必しも論文題目其のものを示す意味ならず

土木工學論文抄録頒布に就て

昭和 9 年 10 月本會に於て發刊致しました土木工學論文抄録の殘部があります、御希望の方は御申出て下さい、3 圓 50 錢で頒布致します。

會 告

明治以前日本土木史發刊延期に就て

曩に豫約申込を受けました本會發行の明治以前日本土木史は本年12月末日までに上梓送本することにして居りましたが、その後蒐集の史料中に割愛し難い新材料がありまして之を追加し又は修正することに致しました関係上頁數も相當増加し極力編輯を急ぎましても尙5ヶ月位の日子を要する見込でありますので、誠に恐縮の次第で御座いますは何卒事情御了察下さいまして明年5月まで御猶豫の程を御願ひ申上ます。

御住所不明會員に就て御願ひ

下記諸君は轉居先の御通知がないため、會誌の配布を始め、その他の諸通信が出来ませんのは誠に遺憾であります。どうぞ知人の方は御手数恐入りますが、御本人に御注意下さるか、本會にその住所又は勤務先を御知らせ願ひます。

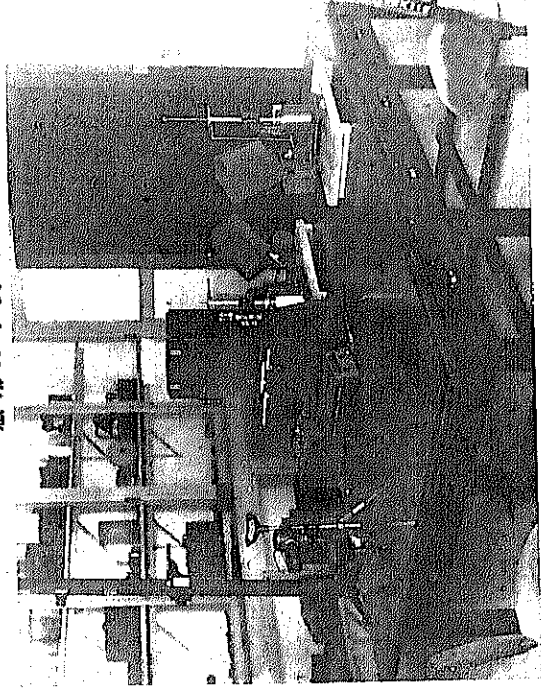
		會 員			
荒川參太郎君 陳 澂 榛君	稻葉彌吉君 藤原 讓君	木村眞一郎君 丸林筑郎君	小林源次君 村田 清君	藤 増能君 安西榮太郎君	張 淮和君 山本保之助君
		准 員			
和泉高殿君 小川彌一郎君 菊池三吉君 關 佳夫君 高瀬太吉君 中野順太郎君 濱崎廣四郎君 水原馨文君 山田政次郎君 劉 作 楹君	池田乙次郎君 (舊名三郎) 緒方政雄君 栗田忠治君 曾我 進君 高橋理三郎君 難波壽一君 平木源太郎君 宮田 肇君 横田清治君	池田角太郎君 大森鶴吉君 小林義雄君 田代岩平君 武田惣一郎君 丹羽賢象君 藤村禮土君 村田勝次君 吉金亮三君	石原三郎君 柿崎景久君 佐藤興吉君 田所要吉君 谷 征一郎君 西野清民君 福島 保君 (舊名高尾) 本橋二郎君 吉田二億君	岩田正平君 片岡 輝君 齋藤賢策君 田中武次君 徐 三 雲君 野口金太君 船橋貞一君 矢野鷹雄君 吉 丸 養君	袁 汝 誠君 城内清太君 末永政雄君 多田安三郎君 坪井 基君 萩原官六君 萬 斯 選君 山尾茂夫君 吉見胤隆君

東京帝國大學工學部土木工學科新教室及實驗室

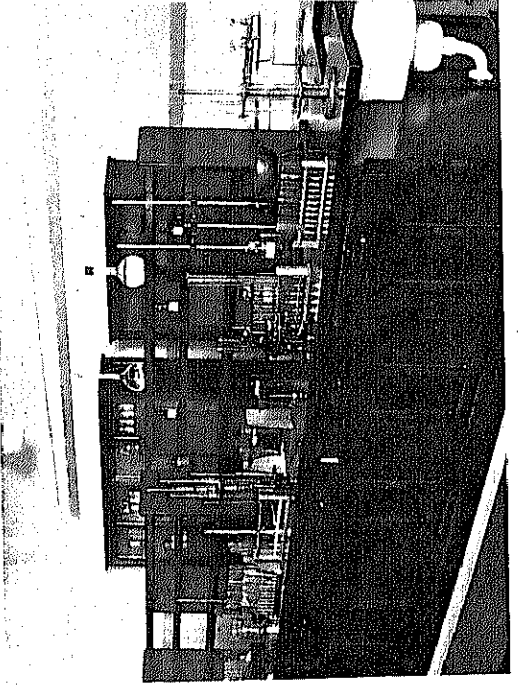
1. 新教室全景 (向って左半分が土木)



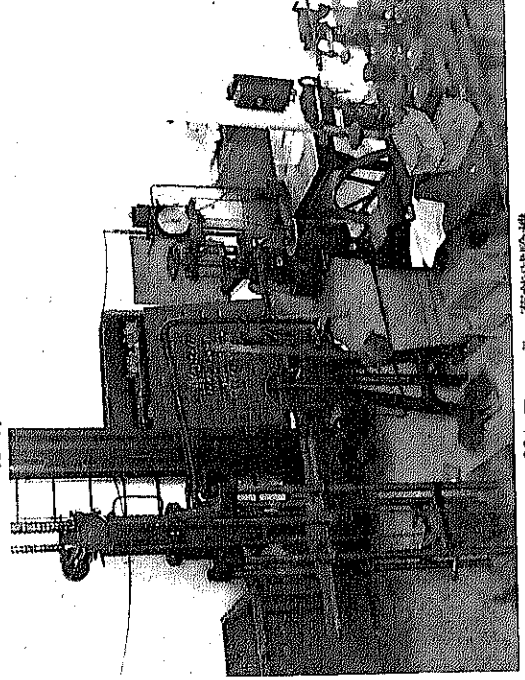
2. 應用力學實驗室



3. 上下水の水質實驗室

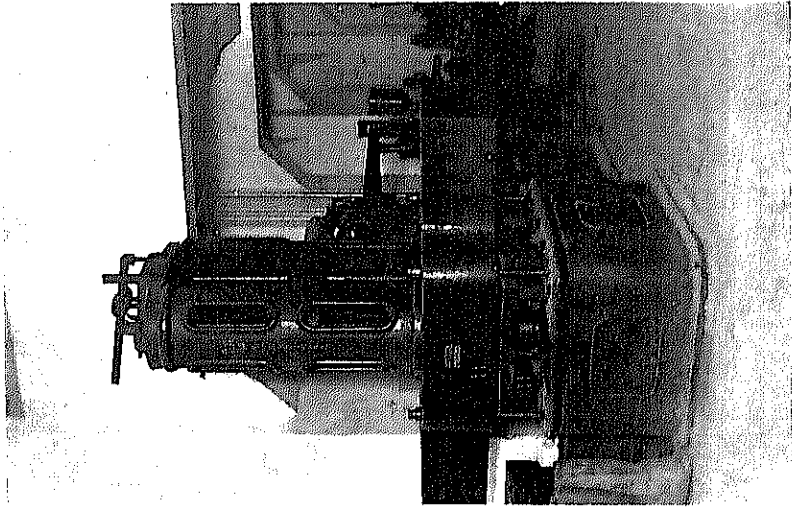


4. 材料強弱實驗室の一部



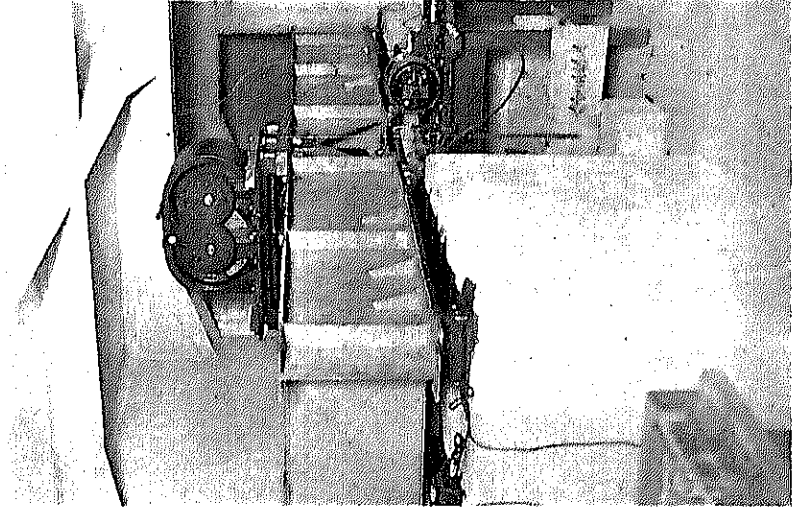
30t アムスラー 萬能試験機

5. 材料強弱實驗室の一部



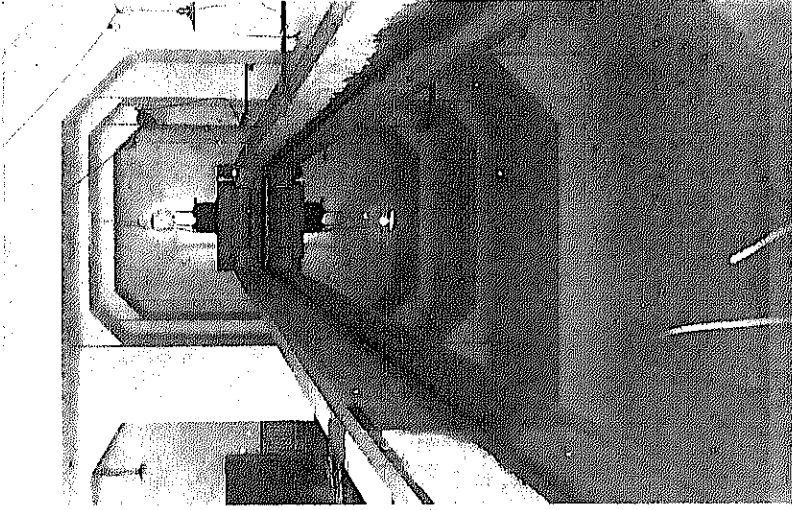
100t リーロー型真能試験機

6. 材料強弱實驗室分室



田中 式 疲 勞 試 験 機

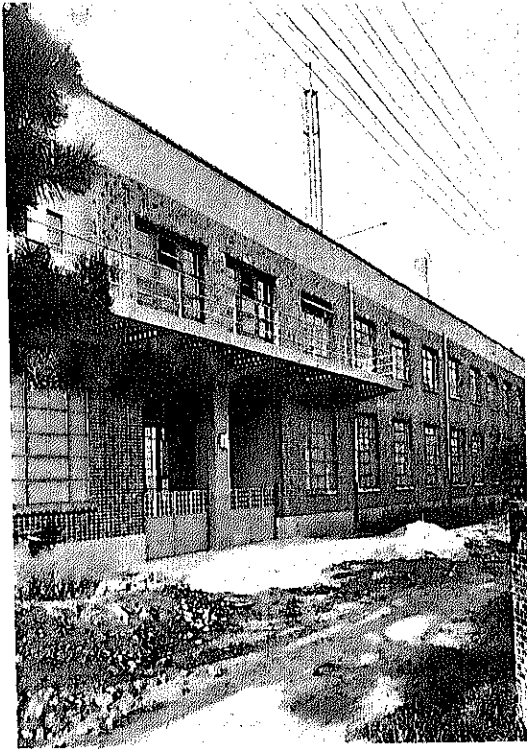
7. 河海工學實驗室内の水槽



幅 1.5m, 長さ 17.0m, 深さ 0.7m 鐵筋コンクリート 製, 一側を木製とし, 取壊げ, 港灣の試験に便せしむ。

京都帝國大學工學部中央實驗所

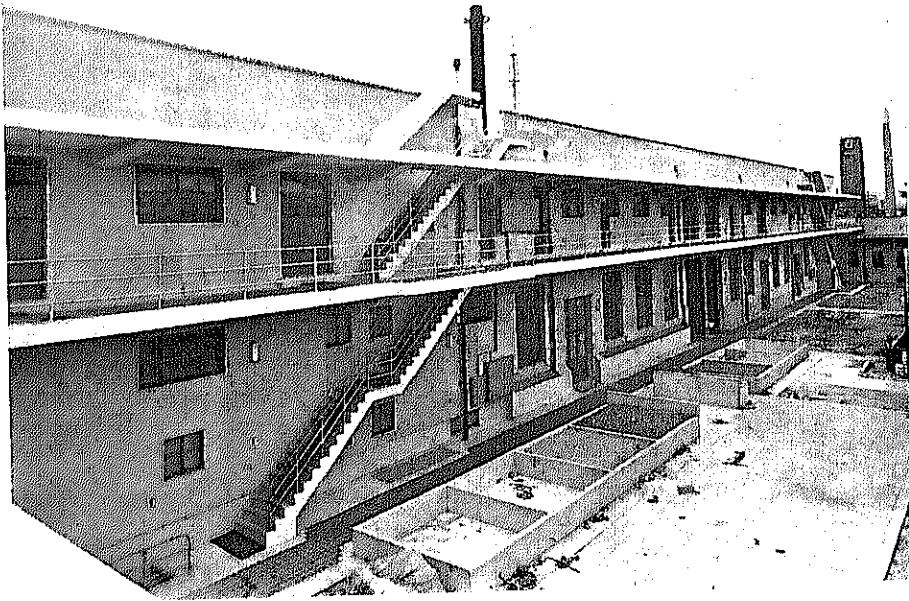
1. 南館正面

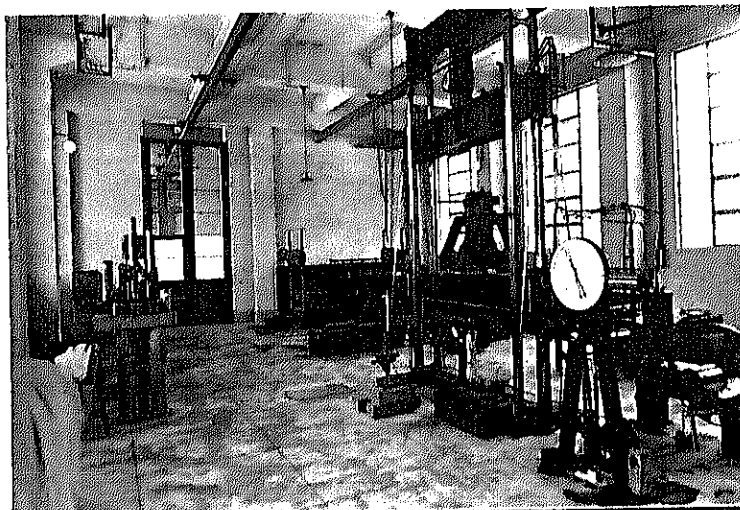


本實驗所は大正 3 年に創設せられたるも、偶々昭和 8 年 12 月災禍に遭ひ其の施設の大部を失つた。其の後復舊を企て昭和 9 年 8 月起工、同 10 年 5 月竣工したものである。本所の組織は下の 6 部門に分たる。

1. 材料研究部
2. 流體研究部
3. 動力研究部
4. 高温低温研究部
5. 振動研究部
6. 製造工業研究部

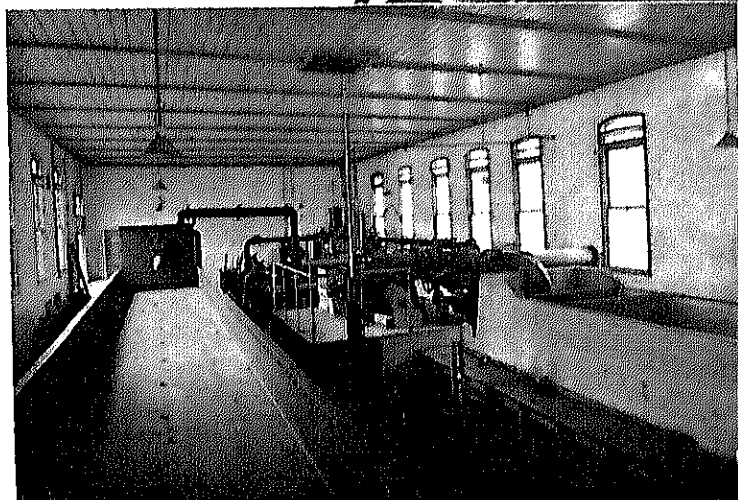
2. 南館 (中庭側)





3. 土木建築材料試験室

4. 鋸接研究室



5. 水理実験室

向って左側は可動水槽にして
18m, 幅 1.8m, 深 0.45m,
は水平より 1/25 迄變化せし
ことが出来る。

會 告

圖書御寄贈の御願ひ

本會は本會所有の圖書雜誌を整理し、圖書室を設備致しましたが、現在所有の圖書は未だ充分とは云へませんから、會員の著書其他圖書雜誌は大小に拘らず學會宛御寄贈下さる様御願ひ致します。

圖書室及び娛樂室御利用に就て

本會所有の圖書及び雜誌は本會圖書室に備付けてありますから、下記時間内御隨意に御閲覧下さい。尙娛樂室には碁、將棋盤を備付けてありますから御利用を御願ひ致します。

自 9 月 1 日至 12 月 31 日 自 午前 9 時 至 午後 8 時、 自 7 月 21 日 及 土 曜 日 自 午前 9 時 至 午後 4 時、
自 1 月 1 日 至 7 月 20 日 至 8 月 31 日
但し 日 曜 日 及 び 祭 日 休。

徽章佩用に就て

本會の徽章は一般會員の方々に必ず佩用して頂く事に致してをります。講演會、見學會其他事務所御利用には徽章佩用を必要としますから、未だ佩用せられない方は至急御申出下さい。

1. 徽章の寸法 徑 14 mm
2. 品種 銀地金文字浮出し
3. 種類 詰襟服用と背廣服用の別あり
4. 實費 金 50 錢 (郵送の場合は外に暫留郵便料 1 個に付金 13 錢を要す)



(價 格 六)

寄稿に関する注意

1. 用紙: 成るべく本會の原稿用紙を使用され度し。原稿用紙は御請求次第御送り致します。
 2. 頁數: 頁數は本會の原稿用紙 180 枚 (本會誌 30 頁) 以内とされ度し。若し前記頁數を超過する場合は登載をお断りすることがあります。
 3. 文體: 文體は文章的口語體とす。本文に重要な關係のない前置、挨拶等は省く事。この方針に基づき適當に字句の修整、短縮を行ふことがありますから御了承あり度し。
 4. 書體: 楷書とし、假名は平假名、數字は算用數字、ローマ字は日本式ローマ字を使用され度し。歐字は特に明瞭に認められ度し。例へば n と u , u と v , r と v , a と α , r と γ , d と δ , その他 C と c , K と k , O と o 等頭字と小字とを判然たらしむる事。
 5. 算式標端: (1) 本文文字間に挿入する算式は
例へば a/b と書き $\frac{a}{b}$ を避け、 $(a+b)/(c+d)$ と書き $\frac{a+b}{c+d}$ を避けること。
(2) 數 字
數字は 3 格毎に間隔を空ける事 名數は次の如く書き 括弧内の如く書くを避けること。例へば
35 錢 (三十五錢), 13.56 圓 (十三圓五十六錢), 1~4 時間 (一時間乃至四時間),
88 326 t (八萬八千三百二十六噸), 1935 年 1 月 1 日 (千九百三十五年一月一日),
m (米), m^3 (立方米), kg (珎), l (立), 83.4 尺 (八丈三尺四寸)
 6. 用語: 應用力學及コンクリート用語は工學會決定用語を使用され度し (應用力學用語は本誌第 19 卷第 5 號, コンクリート用語は第 20 卷第 6 號會告参照)。
コンクリートは片假名で記し漢字を用ひざること。
 7. 圖表: (1) 圖表には圖表題を記すこと。
(2) 複雑なる表の如きは成るべくグラフにて示す事。
(3) 圖面はその儘縮寫し得る様にトレーシングペーパー, オイルペーパー, トレーシングクロス等とすること。
(4) 圖表は凡て墨色を用ひインキ類或は採色を施さざる事。
(5) 方眼紙は青罫のものを用ひ (黃色, 赤色の罫は使用せざる事) 縦横線を必要とする部分には豫め墨線にて之を描き置くこと。
(6) 圖表の文字, 數字は特に大きく書かれ度し (縮寫の標準は 1/2~1/5 程度を以て縮寫後の文字の大きさを約 2mm 程度となる様され度し)。
(7) 圖表類は製版の都合上かなり汚損するものと豫め御合み下され度し。
 8. 寫眞: 寫眞は特に明瞭なるものを送られ度し。
 9. 其他: (1) 論說報告は邦文に限る。
(2) 論說報告には必ず冒頭に英文表題及び邦式寫眞並に著者の職名及び勤務所名を添附され度し。
- 附 記: (1) 論說報告, 彙報, 抄録及び工事寫眞にして掲載せる分には薄謝を呈します。
(2) 購読, 論說報告の各欄に掲載の分には抜刷 20 部を寄稿者に贈呈致します。尙 20 部以上御希望の向には豫め御通知ある場合に限り實費にて御要求に應じます。

會員轉居轉勤の場合の注意

會員の御轉居又は御轉勤の場合は即時明細に御通知下され度し。

會費納付に付き注意

會 費	會員種格	會費年額	第 1 期分 (1 月~6 月)	第 2 期分 (7 月~12 月)
	會 員	金 12 圓	金 6 圓	金 6 圓
	准 員	金 9 圓	金 4.50 圓	金 4.50 圓
	學生員	金 6 圓	金 3 圓	金 3 圓

新入會者は月割計算とす。

納 期 第 1 期分：3 月 第 2 期分：6 月

納付方法 集金郵便を差向けます（旅行等にて御不在の場合も拂込に支障なき様御配慮下さい）。

振替郵便御利用の場合は振替口座東京 16828 番へ願ひます。

朝鮮滿洲の一部等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末迄爲替その他の方法に依り御送金相成たし。

會費一時納付の御豫定の場合は豫め御通知下されたし。

未納の場合 集金郵便に對し故なく支拂を拒絶し又はその他の方法により御送金なき場合は會費滞納者として遺憾ながら定款第 2 章第 14 條第 1 項に依り會誌の配布を停止せられます。

會誌未着の場合の注意

會誌は毎月 25 日に發行し漏なく配布致しますから、未着の場合には一應本會に御照會下さい。

發行後數ヶ月経過しての照會は時に残部皆無となり配布不可能の場合があります。

既刊會誌殘部内譯

(* は残部有るものを示す)

巻	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	金額(1部) (円)
5	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.00
6	—	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	1.00
7	—	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	1.50
8	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
9	*	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
10	—	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
11	—	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
12	—	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
13	—	*	*	—	—	*	—	—	—	—	—	—	2.00
14	*	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
15	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
16	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
17	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
18	—	—	*	*	*	*	*	*	*	*	*	—	1.00
19	*	*	*	—	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
20	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
21	—	—	*	*	*	—	—	—	*	*	*	*	1.00
第 20 巻第 12 號 (創立 20 周年記念號)													1.50
第 21 巻第 7 號 (會誌索引付)													1.30
東京市内外交通に關する調査書													3.00
震害調査報告書(1, 2, 3)													13.00
應用力学聯合大會譯叢集													1.00
鐵筋コンクリート標準示方書													0.50
同上 解説													1.00
土木工學論文抄録													3.50
土木學會誌索引(第 1 巻第 1 號—第 20 巻第 12 號)													0.50

上記残部會誌御希望の場合は所要金額を振替口座東京 16828 番に拂込用紙通信欄にその旨記入請求せられたし。

廣 告 料

普通廣告	1 回 1 頁	85 圓	1 回半頁	20 圓
指定廣告	{裏表紙 3 面對 向及廣告初頁}		1 回 1 頁	40 圓
			1 回 1 頁	70 圓
		裏表紙 3 面 色アート	1 回 1 頁	60 圓

○指定廣告は凡て 1 箇年繼續申込のものに限り取扱ふものとす

○會員自身の廣告に對しては總て上記料金の割引とす

○同一廣告の連續掲載申込に對しては 1 年 4 回以上 1 割引とす

○廣告に寫眞版又は木版等を挿入する場合は之に要する資費を別に申受くるものとす

DOBOKU-GAKKAI-SI.

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY.)

VOL. XXI, NO. 12, DECEMBER, 1935.

CONTENTS.

	Page
Proceedings of the Society.	109
Papers.	
On the Proper Adjustment for the Spaces of Tracks and the Sizes of Tunnel in the Underground Rapid Transit Lines to conform their own Distinctive Alignment (Part I). <i>By Kunie Abe, C. E., Member.</i>	1715
The Regularization Works of the Low Water-Course of the River Yodo. <i>By Kinosuke Yamanouti C. E., Member.</i>	1745
Discussions.	1767
Notes on Matters of Interest.	1779
Abstracts of Selected Articles.	1795
Patent News.	1827

OFFICE

No. 6, 3-TYÔME, MARUNOUTI, KÔZIMATI-KU, TÔKYÔ, JAPAN.